



目次

- 清野陽一・魚津知克「宮城・岩手訪問について」
 堤美智子 「ボランティア参加者の声」
 阿児雄之 「ウェブサイトリニューアル中」

●宮城・岩手訪問について

去る6月12日(火)、被災図書資料カードの進捗状況のご報告と、今後の打ち合わせを兼ねて、石巻市を訪問して参りました。

朝の飛行機で仙台空港へと向かい、石巻市と我々をつないで下さった、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク(宮城資料ネット)とも連携している東北大学・藤沢敦先生が空港まで迎えに来て下さいました。

空港から石巻市まで向かう間、被災した各地を見学しながら移動しました。名取市閑上(ゆりあげ)地区、仙台市若林区荒浜地区、その近くにあり、津波痕跡が見つかった沓形(くつがた)遺跡。

その後、高速道路に乗って東松島市野蒜(のびる)地区、その先にある宮戸島(みやとじま)の奥松島縄文村にもご挨拶をして参りました。



野蒜文化財倉庫の見学

午後からは、実際に津波の被害に遭った石巻文化センターで担当者の方とお会いしました。これまでメールでのやり取りなどはしていましたが、担当者の方とお会いするのは実はこの時が初めてでした。これまで通りの日常業務に加えて、震災以降の復興事業もあり、担当者の方は大変お疲れの様子でした。我々ができることはできるだけこちらですというだけでも、被災地の方の負担軽減にはなるのだな、と強く思いました。

具体的な進捗状況の報告をし、完了に向けての締め切り等に関する先方のご希望を伺った後、実際の被災した現場を見せて頂きました。

建物内の図書が配架されていた部屋や、図書資料カードが発見された場所もご案内



石巻でのミーティング

内頂きましたが、天井近くまで浸水し、置かれていた本棚もまだそのまゝの状態です。今後この施設をどのようにしていくかもまだ議論中のことだそうです。



被災した報告書類

しかし、表に見えている部分だけではなく、館内の配管の内部にまでもカビなどが進出していることを考えると、ダメージは想像以上のようです。

帰りの車中でも藤沢さんから復興調査について様々なご教示をいただき、仙台に戻って宿泊しました。

翌日は盛岡に移動し、トヨタ研究助成プロジェクトで連携している文化財計測企業のラングを訪問しました。横山・千葉の両氏より、計測技術活用による復興調査効率化への取り組みについてご説明をいただきました。また今後、ラングのご協力により、CEDACHによるワークショップを県内で開催することになりました。

午後は、岩手県庁を訪れ、生涯学習文化課の担当の方と面談しました。現在、分布調査の段階は終わっており、範囲確認調査等に目下全力をあげているため、新手法の導入は一段落ついてから可能であれば検討するとのことでした。比較的短時間でしたが、未来志向の雰囲気での面談は終了しました。あわせて、前記のワークショップの趣旨をご説明し、ご理解いただきました。(清野=宮城部分、魚津=岩手部分)

●石巻文化センター文献カード入力作業進む

一校正作業のお手伝いして下さる方を募集中ですー

先月撮影を終えた石巻文化センターの文献カード入力作業は、7月1日現在で延べ94人の方にお取り組みいただき、55束(約10,300枚)の入力が完了しています。

カード入力作業に参加して下さった堤美智子さんが「参加者の声」をお寄せくださいました。

おかげさまで入力作業に一定の見通しが立ち、判読困難部分の原本確認といった校正作業を開始しました。現

在は大手前大学史学研究所での校正作業に関わるボランティアのみを募集しております。木曜日を基本作業日としていますが、事前にお申し出いただければ、火・水曜日でも作業していただけます。引き続きご支援・ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。(事務局)

— 参加者の声 —

カードの写真から入力表のデータを入力する作業を担当しています。

この度の震災では、私も何か少しでも役に立てることは無いか。と思いSaveMLAに登録しました。と言っても67歳の元大学図書館員では、現地に出かけて行って小さい人たちのためにお話しや読み聞かせが出来る訳もなく、無理して現地に出かけても体調を悪くしたりしたらかえって迷惑だし。とじっとしていました。

そして、やっとこの石巻文化センターの図書カードデータ入力作業の参加募集メールをいただきました。これなら家でできるし、しかも昔取った杵柄とばかり思い切って参加希望のメールを送信しました。

現職時代、NII(国立情報学研究所)の前身、文部省文献情報センター時代に大学図書館からオンラインで図書目録データを分担入力する業務が始まり、同僚と懸命に取り組んだ経験がありました。

そのような作業が家でネットを介して行えるというのは当時から理屈のうえでは分かっていましたが、それが実現するとは感無量です。

あれから27年ほどになりますが、今図書館や博物館、美術館関連の現職の方々がICTを使いこなしていらっしゃることを実感しました。

配信していただく図書カードの写真は懐かしい標準図書カードに手書きで図書の書名や著者、発行所などが記入されています。このカードを書かれた方は今、どうしていらっしゃるのか。と思ったりします。

入力されたデータを校正する作業、これも入力よりもっと地味で疲れる作業です。これもNIIへの目録データ入力の仕事に携わっているときの悩みの種でした。

本当に時間と労力が要するのに、人の目にふれない緑の下の力持ちです。しかし、この作業があるということで、入力する側にとりますと、とても安心感があります。なにせ、眼も見え難く、感覚も衰えていますから。

私のような図書館員をリタイアしたような仲間らにぴったりのこのボランティアに参加を呼びかけなくては、と思いつつ、勤めている時のように毎日顔を合わせる訳ではないので直接のお誘いができていません。

この「参加者の声」を読んでくださった皆さんの周りに元大学図書館員で60歳代の方が居たら一言お誘いいただければ、パソコンでメールをしているような人だったらきっと参加可能ですので、よろしく願いいたします。

●ウェブサイトリニューアル中

現在、CEDACHの活動紹介や被災文化遺産情報を提供しているウェブサイト(<http://cedach.org>)のリニューアル作業をおこなっています。新しいウェブサイトは、これまでCEDACHのロゴやポスターなどを制作してきた金田あおいさんがデザインを担当。サイト内の各ページは、皆さんにお馴染みの、あのロゴカラー色である”緑・赤・紫・茶・藍”を基調としてカテゴリー分類され、和の雰囲気漂うしっとりとしたデザインです。

また、デザインだけでなく内容も充実！CEDACHの活動を「CEDACHとは」「情報」「連携」「技術支援」と大きく4つに整理してご紹介しています。「CEDACHとは」では、私たちの活動理念やロゴなど、CEDACH自身のことをお伝えします。「情報」では、日々の活動記録を発信していきます。併せて、メーリングリスト・Twitter・関連ニュース記事など、被災文化遺産に関わる情報が集まっています。「連携」では、CEDACHの活動を支持していただき、共に支援活動をおこなっている団体との取り組みを紹介しています。そして、「技術支援」ではGIS(地理情報システム)を活用した支援システムの共同開発・データ集約に関わる作業環境を提供しています。

CEDACHの活動も復興の歩みと呼応して多岐にわたって来ました。また、それに関わる情報を多種多様なものとなってきました。それらに柔軟に対応し、息の長い被災文化遺産支援をすることができる情報ポータルとして、CEDACHウェブサイトをみんなで育てていきましょう。

7月中旬に正式リニューアルの予定です。素敵に生まれ変わる新しいウェブサイトをお楽しみに。(阿児)



CEDACH ニュースレター Vol.03

2012年7月7日 発行

編集・発行

CEDACH 広報チーム

〒662-0965 兵庫県西宮市郷免町 8-17
大手前大学史学研究所内 CEDACH 事務局

TEL : 0798-32-5007

FAX : 0798-32-5045

E-mail : info@cedach.org

URL : <http://cedach.org>